そのとき　かめさんはどこを見ていたのか

北野小学校長　丹羽　郁人

昔、昔、あるところにうさぎさんとかめさんが住んでいました。二人はとっても仲良しです。そして、毎日楽しく遊んでいました。

ある日のことです。うさぎさんは、かめさんに言いました。

「今日はかけっこをしよう。あの山の頂上まで競走だ。よーい、ドン。」

そう言うとうさぎさんは、勢いよく飛び出しました。速いこと速いこと、あっという間にかめさんを引き離し、もう追いつけないだろうという所まで走っていきました。

「かめさんはどこを走っているのかな。まだあんなところだ。これじゃあ、絶対に追いつかれないな。一休みするか。」

そう言うとうさぎさん、道端に寝転がって、ぐっすり眠ってしまいました。

「ぐう、ぐう」（寝ているうさぎさんのいびきの音）

「よいしょ、よいしょ。」（ゴールを目指しているかめさんの声）

うさぎさんが目を覚ましたころには、もうかめさんは頂上にたどり着いていました。

この話は、過信（自信過剰）して思い上がり油断をすると物事を逃してしまう。また、歩みが遅くとも、脇道にそれず、着実に真っ直ぐ進むことで、最終的に大きな成果を得ることができるということを教えてくれる。

うさぎさん、いくら力があっても、油断してはいけないね。かめさん、あきらめないで頑張れば、最後には結果が得られるね。

そして、私はこんなことも思う。うさぎさんとかめさんは、いったいどこを見ていたのか、と。

競走の途中でうさぎさんは休憩をした。その時、うさぎさんは後ろを振り返り、どんどん離れていくかめさんを見ている。それに対してかめさんが見ているのは、前。目指すところを見ている。かめさんは、目標を見ていた。

「ゴール」だけ見て頑張ったのがかめさん。　競争相手のかめさんを見ていたのがうさぎさん。

「目標」だけ見ていたのがかめさん。　「目標」がかすんでしまったのがうさぎさん。

何かをするとき、何かを頑張るとき、何かを成し遂げるとき、大切なのは「目標」をもつこと。そして、それを見失わずに、持てる力、蓄えた力を尽くすこと。

新しい年を迎え、新しい学期を迎え、北野小学校の子供たちは目標を立てた。

そして、今、その「目標」に向け、一歩一歩、着実に歩みを続ける北野の子がいる。

我々は、その子たちを認め、支え、時にはそっと背中を押す存在でありたい。

時には寄り添い、時には向き合い、時には委ね任せる、そんな存在でありたい。

そう、北野小学校の教職員は、事実そんな人たちである。

（二〇二一・二・二六）